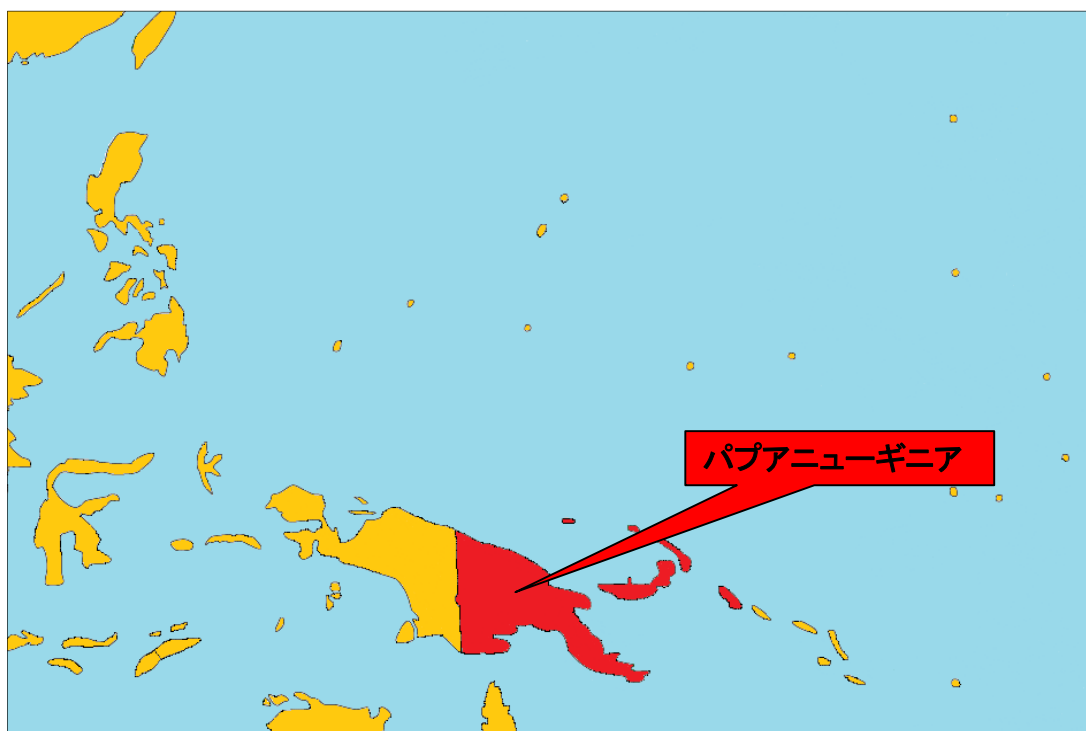


パプアニューギニアでチクングニア熱が発生

2012年10月10日 ProMED 情報(Post Courier)



チクングニア熱は、最初にアフリカ、アジア、ヨーロッパの一部で見つかった蚊媒介性のウイルス性疾患です。ニューカレドニアでも報告され、最近パプアニューギニアの西セピック West Sepik 州のバニモ Vanimo の都市部でも報告されました。

6月に最初の患者が報告され、9月までに、多くの診療所でマラリアに似た症状を示す疾患として報告されています。これまでに死亡した患者はいません。死亡することは、通常まれです。医学研究所(IMR)で52検体を検査したところ、14検体で陽性と確認されました。

6月から今月までに、疑い患者633名が、バニモ Vanimo 病院で報告されています。

チクングニア熱は、ヤブカ属 *Aedes* の蚊に刺されることで感染し、この蚊はデング熱ウイルスも媒介します。ヤブカは日中に刺す蚊で、明け方か夕方が多いです。特徴は、急な発熱で発症し、しばしば関節痛を伴います。その他の症状としては、筋肉痛、頭痛、吐き気、倦怠感、発疹があります。関節痛はすぐに軽減しますが、数週間～数カ月残ります。多くは、完全に治りますが、中には数カ月～数年間にわたって関節痛が続くこともあります。重篤な合併症は通常みられませんが、高齢者は、死亡することもあります。治療薬やワクチンはありません。

〔ProMED 調整者〕

今回初めて、パプアニューギニアからチクングニア熱の患者が報告されました。